

⑥まちの暮らし

お祭り

松江名物「どう行列」の始まりは江戸時代に行われた正月の行事・宮ねりでした。小さな太鼓が、現在使われているような大きな鑓になりました。



よこづな・じんまく
横綱・陣幕（東出雲町出身）
向かって右側の力士が陣幕です。

松江藩は、力士を多く抱えていました。全国の相撲で活躍した力士達が、殿様とともに出雲に帰ってくると、楽山や白潟天満宮付近などで相撲が行われました。番付が作られ、力士のプロマイドとも言える錦絵が出回り、人々は相撲に熱狂しました。



おおぜき・らいでん
大関・雷電

⑦不昧が育てた松江の文化

茶の湯の文化



不昧こと松平家7代藩主・治郷は、お茶とお菓子で有名な殿様です。茶会で使うための多くの茶道具を集め、研究し書物にまとめたことで知られています。不昧の好みのお菓子は100種類以上あったとも言われています。

お菓子の文化



わかくさ
若草

やまかわ
山川

ひめこそで
姫小袖

左のお菓子「若草」は、明治30年ごろに復元され、現在まで伝わっています。姫小袖は、藩主に命令されたときにだけ作られることを許されたお菓子でした。山川は、大正7年に復元されて、日本三大銘菓の一つにもかぞえられています。

松江で最も古い茶室「伝利休茶室」



松江歴史館には天下一の茶の湯の名人といわれた千利休のものとつたわる茶室が復原されています。不昧は質素で静かな雰囲気をお茶の湯に大切にしていた。三畳ほどの小さなこの茶室は、松江藩の家老を勤めた大橋家から穴道町の木幡家に伝わったものです。

もっとじっくり見学したい人へ

松江歴史館では、市内6年生に松江の歴史についていつでも好きなだけ学んでもらえるように年間パスポート（無料で何度でも使えます）をさしあげます。パスポートは、松江歴史館に来た時に受付で「名前・学校名・学年・学級」を書けばもらえます。

松江歴史館で松江について学ぼう

学校名：

6年

組

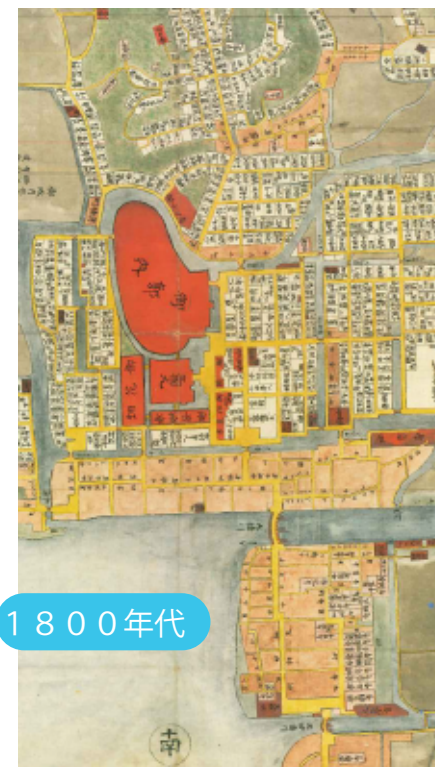
氏名：

①昔の松江

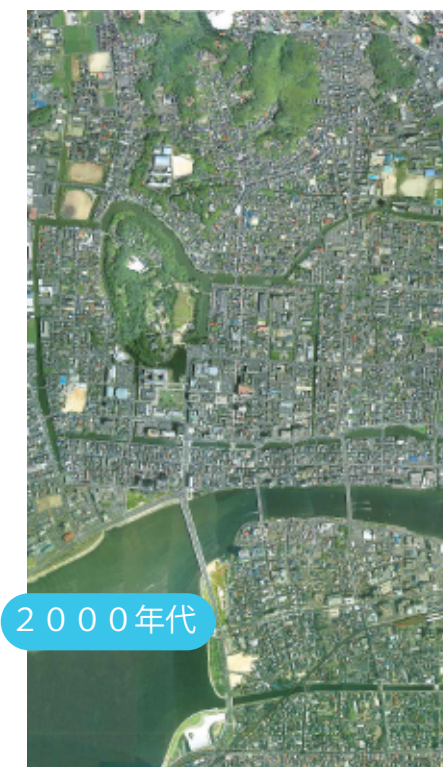
400年前からまちの形が変わっていません。



1600年代



1800年代



2000年代

②松江城の国宝たち



国宝 松江城天守



赤外線写真（表）

てんしゅ かんせいじ き
天守の完成時期を
明らかにした祈禱札



赤外線写真（表）

ちんたくきとうふだ
鎮宅祈禱札



しずめもの
鎮物



たましい
玉石



やり
槍



きとうふだ
祈禱札

けいちょうじゅうろくねんしょうがつ
「慶長十六年正月」と墨で書かれた
2枚の祈禱札が松江城天守の地階の
柱に打ちつけられていたことが判明
しました。これによって1611年の
正月には天守が完成したことが分か
りました。

